

日本地衣学会

No.56

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会員通信.....	197
	国際植物学会議(IBC)に出席して/高橋奏恵.....	197
	地衣類百話(一)~(三)/原田 浩.....	200

会員通信 From Members

国際植物学会議 (IBC) に参加して

高橋奏恵：広島大・院・理・生物科学

地衣学会第4回大会が終了して一息つく間もなく、7月18日~23日ウィーンで開催された国際植物学会議(IBC)に参加した。私たちの研究室からは、出口先生、助手の坪田先生、学生3名が出席した。

7月17日、夕方からIBCのオープニングレセプションが催された。会場となった Vienna City Hall (図1)の重厚で美しい外観に圧倒されながら中へ入ると、ジャズの生演奏とともにワインやビール、食事が用意されていた。国際植物分類学会幹事長 Tod Stuessy 氏の挨拶のあと乾杯し、楽しい時間を過ごした。

7月18日学会初日、開会式がおこなわれ、音楽の都ウィーンらしくバイオリンの生演奏で幕が開けた(図2)。243題目のうち、地衣類関係の発表としては以下3題のシンポジウムがあり、それぞれ7人のオーガナイザーによる口頭発表が行われた。

- Evolution of fungal symbioses with photosynthetic organisms: insights from lichen and plant associated fungi
- Lichen life histories: developmental and life cycle perspectives in lichen fungi and algae



図1. オープニングレセプションの会場となった Vienna city hall.



図2 (左上). バイオリンの生演奏で始まった IBC 開
会式.



図3 (左下). ポスター発表の様子.

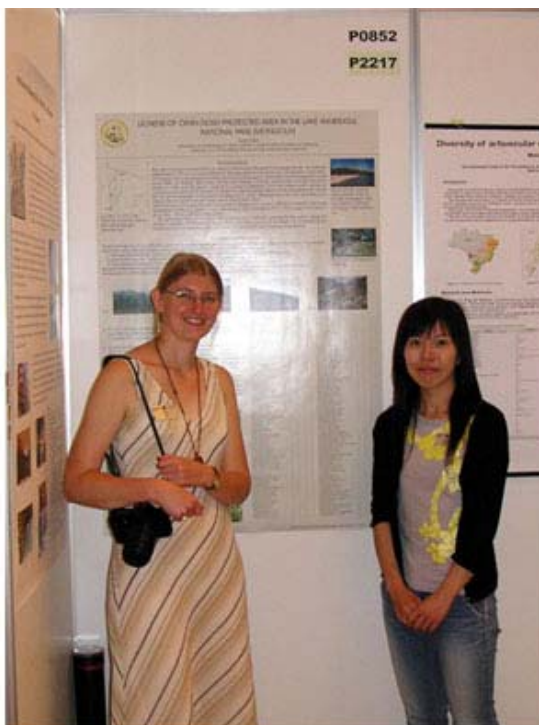


図4 (右上). ポーランドの地衣類研究者 Kalina さん
と.



図5 (右下). ウィーン自然史博物館。サークル内にあ
るのはオーストリア女帝マリア・テレジア像.

- ・ Dispersal, biogeography and speciation in lichen ascomycetes

ポスターは 2,730 題の発表があり、地衣類関係の日本国内からの発表としては、高橋らの発表を含め以下 2 題であった

- ・ N. Hamada, Y. Takenaka, T. Tanahashi; Growth inhibitory activity of metabolites from lichen mycobionts on photobiont.
- ・ K. Takahashi, L. Wang, H. Tsubota, H. Deguchi; Taxonomic revision of the genus *Sticta* (Lobariaceae, Peltigerales) in East Asia (図3) .

地衣菌と地衣生菌との系統、地衣類と共生藻の系統関係、地衣類の種分化に関する研究など、分子系統学的研究を用いた興味深い研究であったが、全シンポジウムを通して、残念ながら分類の研究発表はほとんどなかった。ポスター発表では分類関係のものが見られたが、やはり分子系統が主流であった。分子系統学的研究はこれからの地衣類研究にとっても重要であると思うが、そのような中でもやはり形態形質を大事に扱った研究をしていきたいと感じた。また、今回のシンポジウムで活躍が目立ったのは女性研究者である(恥ずかしながら今回シンポジウムで発表されたデューク大学の

Miadlikowska 博士のことをこれまでずっと男性だと思いついていた私は、実際会ってみるととてもきれいな女性であることがわかり驚いた。聞けばコケの発表でも女性研究者が目立っていたとのことである。このような女性研究者の活躍を目の当たりにして自分もがんばらねばと思い、シンポジウム終了後、Miadlikowska 博士に名刺を渡し自己紹介してきた。また、会場では、ヘルシンキでお世話になった Ahti 博士と再会することができたのでとても嬉しかった。ポスター発表では、モンゴルの地衣類フロアを研究しているポーランドの学生 Kalina さんと友達になった(図4)。地衣類の研究を始めたばかりだという彼女は、現在はフロアの研究をしているが、将来は分類の仕事をしたということだった。また、普段、日本国内の学会でも話をしたことがなかった他大学の学生さんとも、このような国際学会では不思議とすんなり打ち解けることができるもので、東大の藻類研究者の学生さんたちとも知り合いになることができた。

【ウィーン自然史博物館標本庫訪問】

大会期間中、学会参加者を対象にウィーン自然史博物館(図5)の標本庫が解放されたので訪ねた。標本庫への入り口は自然史博物館の裏側にあり、IBC の名札をつけていけば中に入ることができた。標本庫内はとてもきれいに整備されており、管理が隅々まで行き届いていた。地衣類部門は蘚苔類、藻類と同じフロアにある。タイプ標本とエキシカータはそれぞれ別の棚に収められており、属ごとに分けられている(図6、7)。標本は、Schiffner, Hochstetter, Beccari, Müller, Nylander, Montagne コレクションなどの他、朝比奈コレクションも数点収蔵されていた。

今回、国際学会に参加して一番の収穫は、いろいろな研究者と知り合いになれたこと、世界の中における自分の研究の位置付けを意識させられたことである。IBC



図6(上). タイプ標本が収められている棚。

図7(下). 整理整頓された標本箱。

は6年に1回の学会であるが、学生のうちにこのような大規模な国際学会に参加できたことは私にとって非常に有意義なことであった。次回のIBCは6年後、オーストラリアで開催される。ひとまわり成長した自分では是非参加したいものである。

地衣類百話（一）サルオガセモドキ

サルオガセモドキと言う名前からすると、地衣類のサルオガセ属 *Usnea* に似た樹状地衣かなと思いがちだが、全くの別物である。学名は *Tillandsia usneoides*、種小名の *usneoides* はサルオガセ属に由来する。つまりサルオガセに似た *Tillandsia* ということになる。この仲間はエアープランツあるいはティランジア(チランジアとも)と言う名で、園芸の世界ではよく知られるパイナップル科の種子植物である。中米を中心に分布する。サルオガセモドキは南米からアメリカの南部にかけて見られるのだが、なぜかスパニッシュモス (Spanish moss; スペインのコケ) という英名がある。(原田 浩)

地衣類百話（二）サイパンのスパニッシュモス

1991年に北マリアナ諸島調査の準備のために、同僚とともにサイパンに出張したとき、当地を統括する北マリアナ政府の建物の間を移動中のことであった。点在する樹木の一つを注意視する私に対し、日本語の堪能な北マリアナ政府高官のゲレロ氏は言った、「それはスパニッシュモスね」と。どうもサイパンでは、樹状地衣のカラタチゴケ属 *Ramalina* のことをそう呼ぶらしい。サイパン島の丘の上では、ヤシの木やらにカラタチゴケ属が生え、垂れ下がっている風景が時々見られた。なるほ

ど、そう言われれば、エアープランツに似ているな、・・・しかしその後、誰からも「スパニッシュモス」の名を聞く機会は無かった。(原田 浩)

地衣類百話（三）剣山の「霧の足」

1981年から82年の頃、私は卒論で四国は剣山(標高1955m)の地衣類相を調べていた。標高1400弱の見の越(みのこし)まで舗装道路が来ていて(現在は国道439号)、そこからリフトに乗り、立派なブナの森を進む。太い枝からヨコワサルオガセがたくさん垂れ下がる景色は壮観だった。ブナ林を通り過ぎ、やがてダケカンバなどにナガサルオガセが絡み付いていたりするのを見ることができた。終点の西島は既に標高1680m、そこから頂上までは遠くない。

調査の折には頂上直下の「剣山頂上ヒュッテ」を定宿にしていた。多分、ヨコワサルオガセの話題になったときだったか、宿のご主人が、当地では「霧の足」と呼ぶことを教えてくれた。なるほど霧深い山に多いし、面白い名前だな、と思った。しかしヨコワサルオガセだけでなく、地上に生えるハナゴケの仲間など、いろいろな地衣類も「霧の足」と呼ぶとのこと。つまり、「地衣類」とほぼ同義で使っているようであった。(原田 浩)

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌42号148ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 42, p. 148 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター 56号

発行日：2005年 8月 29日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内
